

をテーマに、英語によりディスカッション。SGH課題研究を通じて学んだことや将来の抱負など、高校生自身が考えていることを互いに話し合った。

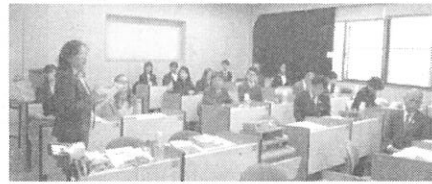
第3部では、幹事校の大川一郎筑波大附属高校長による挨拶に続いて、スーパーグロー

る点が多かった。今後の教育活動にしっかりと生かしていきたい」「非常に素晴らしい取り組みで、一般にも公開していただいたのは、ありがたいです」との声が聞かれた。今回のフォーラムを通してSGH事業を広く普及し、さらなる推進を図ることが期待される。

### 広島大、公開国際セミナーを開催 地域と大学が協働で創る多文化共生社会

広島大学は、広島大短期交換留学プログラム(HUSA)留学生向けに開講している「グローバル化支援インターンシップ」授業(国際センター恒松直美准教授担当)の一環として、『地域と大学が協働で創る多文化共生社会』公開国際セミナーを開催した。2016・17年度のHUSAプログラムでは、北米・ヨーロッパ・オセアニア・アジアの15カ国30大学からの交換留学生39人が広島大で学んでいる。

同セミナーでは、アメリカ・メキシコ・中国・台湾・韓国・タイ出身の留学生11人がHUSAプログラムの代表として、プロジェクトの企画を発表



留學生は主に2種類のプロジェクトに取り組んでおり、「インターンシップ」に挑戦する留學生は29年2月に開催される「倉橋フェスティバル」における地域住民との国際交流企画の提案を行い、「グローバルリーダーシップ・プロジェクト」に取り組む留學生は「HUSAプログラム自助支援プロジェクト」を提案した。



地域からは、呉市議会議員、呉市産業部観光振興課 倉橋まちづくりセンター、倉橋観光ボランティアガイドなどが参加。HUSA担当の恒松直美国際センター准教授による司会・進行のもと、留學生が提示した斬新なアイデアや提案について、英語と日本語を使用した活発な議論が展開された。広島大では、この国際的体験学習を通して、留學生と地域住民との絆が強まることを期待している。

### 広島大が国際シンポジウムを開催 地球理解のためのオンサイト教育

広島大学大学院博士課程教育リーダーングプログラム「たおやかで平和な共生社会創生プログラム」は、このほど東広島キャンパスで、第4回国際シンポジウム『地球理解のためのオンサイト教育：大学院プログラムとIYGU2016』を開催した。写真上。

基調講演を行っペレン・ベレン教授



科学的な知見を、より持続可能なライフスタイルの選択に生かすための国際地球理解年(IYGU)プロジェクトの代表であるフリードリヒ・シラー大学(ドイツ)のベンノ・バレン教授による基調講演後、国内の大学で現場を重視した実践的教育プログラムについて取り組む矢原徹一九州大教授、岡本耕平名古屋大教授、藤原章正広島大大学院国際協力研究科教授、たおやかで平和な共生社会創生プログラム履修生3人がそれぞれ講演。さらに講演後には、「地球理解のためのオンサイト教育」をテーマに、パネルディスカッションを実施した。



プログラム履修生と

参加者は、国際社会が抱える課題や持続可能な社会の構築に向けて、果たすべき大学の貢献などについて活発に議論を交わすなど、オンサイト教育への理解を深めていた。

